

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070401858		
法人名	株式会社コムスン		
事業所名	コムスンのほほえみ北九州神幸		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉北区神幸町3番29号 (電話) 093-551-2881		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 4月 20日	評価確定日	平成 19年 6月 18日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算	12.1人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	74,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(222,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円		※実費

(4) 利用者の概要(平成 19年 4月 10日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐伯内科医院、林田病院、あすなろ内科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

内装には木がふんだんに使われ、照明も柔らかい色のものが選ばれており、職員の穏やかな様子も相まって、ホーム全体に落ち着いた雰囲気が漂っている。法人として、“メモリーケア”(行動から心の動きを察して、現有能力を最大限引き出していくケア)に取り組んでおり、何事につけ、過去の出来事を把握して入居者の思いの背景を検討し、入居者の立場に立って考えるようにしているとのこと。「介護計画」作成の過程にもその考えは反映されており、「センター方式」を活用して、生活歴・入居者の思い等の情報を収集・整理し、入居者の希望や好きなこと、現在の関心事を盛り込んだ、“入居者に意欲的になっていただく”ことに配慮された計画が作成されている。この1年、特に家族と入居者が一緒に過ごす機会作りを力を入れてきたとのこと、大きな行事だけでなく、習字教室やクラフト等の日々のレクリエーションについても、家族へのお知らせ・参加の呼びかけがされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①より細やかな空調管理ができるよう、各居室に温度計を設置。②「介護計画」と日々の記録をさらに充実させるため、センター方式を導入。日々の記録は法人としてより詳細な記録ができる書式への変更もあり、各入居者の細かな変化も記録するよう職員を指導。③栄養管理の強化のため、ホーム内で勉強会を実施。④成年後見制度の理解の促進のため、家族会で説明。⑤定期健康診断について、家族会で市の健診の活用を提案。検討を進めている。⑥洗濯機の洗濯槽の掃除・消毒も定期化し、衛生管理を強化。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 家族・職員・法人内の上役からの意見を参考にしながら行った。自己評価の過程が、職員一人ひとりに、自身のケアを省みてもらう機会となり、また前回の外部評価結果を質の向上に結びつけることはしているが、自己評価結果自体を日々のケアに活かしていく取り組みは、まだ充分行えているとはいえないとのこと。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は既に5回開催しており、出席者は回ごとに多少異なるが、入居者・家族・包括支援センター職員・地区代表に参加いただいている。グループホームの役割や認知症について、まだ充分理解いただいているとはいえない状況であることもあり、まだ、具体的な課題について討議する場というより、ホームの考え方や取り組み、認知症についての理解を深めていただくための場として会議を活用している段階である。地域の方にホームを身近に感じていただき、ホームが地域に溶け込んでいくことを目標に、会議の席で、行事やレクリエーションへの参加・見学を呼びかけている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 日常の様子や行事について、毎月、ホーム便り(「ほほえみ便り」)を作成・郵送し、家族にお伝えしている。家族来訪時に、何かあったら言ってくださるよう、声がけするとともに、意見箱も設置している。半年に1回及び行事の後には「家族会」を開き、意見をお聞きするようにしている。運営推進会議にも参加いただいている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議に、地区代表に何度かご参加いただくことはでき、ホームとしての働きかけは、積極的・継続的に行っているが、地域の理解・関係づくりは、これからも取り組んでいかなければならない課題である。散歩や買い物の時に挨拶を交わしたり、隣接の保育園との交流はあるが、入居者・職員が地域行事や地区活動・会議に参加したり、地域の方に遊びに来ていただいたりすることは、まだできていない。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念として「高齢者の尊厳と自立を守る」が掲げられているが、特に大切にしていこう姿勢として「いつも笑顔で明るく楽しく元氣よく」を、ホーム独自で定めてもいる。文言として“地域”という言葉はないが、入居者に楽しく暮らしていただくためには、地域との共生が大事と考えており、地域に理解いただき溶け込んでいく取り組みを継続的に行っている。	○	“地域との関係づくり”が、現在、ホームとして特に力を入れていきたいと考えている課題のひとつのこと。現在も、通りに面した窓に「お気軽にご見学ください」という貼り紙をしたりしているが、ホームの理念自体に、「地域との交流が、入居者にとって、また地域にとっても大切である」という表現を加え、地域に対し説明を続けていくと、地域との関係づくりにも役立つと思われる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	企業理念は、入職時の研修の際に徹底して教育があっており、ホーム独自に定めている基本姿勢についても、管理者から繰り返し話がされており、職員には浸透している。楽しんでいただきながら、自立に向けて支援することの具体的実践として、歩行訓練やレクリエーションを毎日実施している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に、地区代表に何度かご参加いただくことはでき、ホームとしての働きかけは、積極的・継続的に行っているが、地域の理解・関係づくりは、これからも取り組んでいかなければならない課題である。散歩や買い物の時に挨拶を交わしたり、隣接の保育園との交流はあるが、入居者・職員が地域行事や地区活動・会議に参加したり、地域の方に遊びに来ていただいたりすることは、まだできていない。	○	地域の方にも、考え方や事情がそれぞれあり、地域に受け入れていただくのに要する時間(期間)、交流のあり方は、地域地域で異なってくると思われる。入居者の生活の拡充のために地域に溶け込み、地域に支えていただきたいという考えを、今後も繰り返しお伝えし、長期的な視点で、焦らず、地道に取り組みを続けていって欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員ともに、評価の意義を理解している。前回の外部評価で指摘された点については、すべて改善策を検討し、改善計画をたて、一つ一つ取り組みを行っている。自己評価も、家族・職員・法人内の上役からの意見を参考にしながら行ったとのことだが、ホーム側からは、自己評価をより深い視点で行い、自己評価結果を日々のケアに活かしていく余地がまだ残されていると思うとの声も聞かれことから、更なる取り組みを期待する。	○	外部評価結果について改善策を考えるのと同じように、自己評価についても、改善策を具体的に検討し、改善計画を作成するのも、自己評価を更に意義深いものにしていく方法として良いと思われる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は既に5回開催しており、出席者は回ごとに多少異なるが、入居者・家族・包括支援センター職員・地区代表に参加している。ただし、ホームとして声かけは継続しているが、ご意見をいただきたい方で参加いただけていない方もおられ、職員も特定の者しか出席できていないことを課題と考えているとのこと。会議では、意見・要望をお聞きし、サービス評価についても、評価結果や改善計画自体を提示したことはないが、改善したことは一つ一つ、説明を行っている。	○	ホームとしても、依頼した方が出席されやすいようにと、開催の曜日等に配慮しているとのこと。今後も、継続して、幅広い方々の参加がいただけるよう、声かけを続けていって欲しい。まずは、職員の運営推進会議の意義の理解がより深まり、会議の議題や会議の開催のしかたの工夫(行事を組み合わせたり、健康・福祉の講座や体験学習の場にする等)のアイデアが活かせるよう、職員の参加を積極的に進めていくのも良いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加いただき、ホームの活動を伝え、助言いただいている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームで勉強会を行っている。制度の利用が必要と思われる方に限らず、すべての方に対し、家族会の席で説明をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の様子や行事について、毎月、ホーム便り(「ほほえみ便り」)を作成・郵送し、家族にお伝えしている。健康状態については、気になることがあればすぐに電話で連絡するようにしている。日用品の買い物は立替式になっているが、記録をつけ、定期的に家族に確認いただいている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に、何かあったら言ってくださるよう、声がけするとともに、意見箱も設置している。重要事項説明書に、事業所としての苦情受付窓口の他、公的機関の窓口も明示している。半年に1回及び行事の後には「家族会」を開き、意見をお聞きするようにしている。運営推進会議にも参加いただいている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以降、若干多かった職員の入れ替わりも、管理者が、日頃から個別面談を頻繁に行い、職員の悩み・ストレスを把握し解消することに努めており、この1年は、安定的な人間関係が維持できたとのこと(外部評価の前月、個人的理由からの退職がたまたま重なってしまった)。入居者から聞かれた時は、「ちょっと、他所に移ったんですよ」と、不安感を抱かれないような説明を心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、年齢・性別で制限はしていない。写真・物作り・レクリエーション等、職員の趣味・得意なことを、ケアの場面で活かしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人として研修に力を入れており、企業理念の「高齢者の尊厳を守る」という考えの徹底を図っている。ホーム内でも、会議や日々の現場で、入居者の権利についての考え方や、具体的な言葉遣いや接し方について話しているが、各ユニットリーダーからは、職員の理解を更に深め、常実践してもらえよう指導していくための指導力をもっと高めていきたいとの声も聞かれ、更なる取り組みを期待したい。	○	職員が、知識として理解するだけでなく、心で感じ、自然な行動として実践していけるよう、研修の手法を工夫していくことも期待したい。高齢者自身の手記や記録を読んでもらったり、ロールプレイで体験してもらったりするのも、効果的と思われる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、研修の体制が整えられており、外部・内部ともに、職員には研修を受ける機会が確保されている。ただし、各職員のレベルを明確にし、スキルアップのための研修を段階的に受けてもらうというような、個別的・計画的な研修が行われているとは言いがたい。	○	職員一人ひとりの知識・技術を高めることで、ホームとして更にステップアップしていくためにも、研修をより計画的に行っていくことが望まれる。職員別に「研修ファイル」を作成し、研修後のレポート作成も含め、職員がレベルアップしてきた過程を記録として残していくのも良いと思われる。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	公式な協議会ではないが、他事業所と協力して、共同で勉強会をしたり、情報交換をして、質の向上を図っている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	予め、入居者・家族に面談し、情報を収集している。入居後早くホームの生活に慣れていただけるよう、好きなことを会話に盛り込む等、収集した情報を活かしている。		
----	----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	--	--

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	“介護する側”“介護される側”という固定的な立場でなく、入居者・家族は1つの家族であるという考えのもと、場面によっては、職員が“娘”“孫”になりながら、入居者の話に耳を傾けたり、教えていただいたりしている。		
----	----	----------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「センター方式」を導入し、生活歴をはじめ、入居者の思い・希望の情報を収集している。法人として、「メモリーケア」(行動から心の動きを察して、現有能力を最大限引き出していくケア)に取り組んでおり、何事につけ、過去の出来事を把握して入居者の思いの背景を検討し、入居者の立場に立って考えるようにしているとのこと。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「センター方式」を活用し、入居者の思いを汲み取り、入居者の立場に立った計画を作成している。入居者の希望や好きなこと、現在の関心事も盛り込まれ、入居者に意欲的になっていただくことに配慮された計画となっている。計画作成に際しては、家族・職員と話し合いをし、さまざまな視点での意見・気づきを反映させている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3カ月ごとに見直しをしている。予定している見直しの時期の前でも、入退院・健康状態の変化・行動の変化がみられたら、職員で話し合いをし、家族に報告・相談をし、ケア内容の変更を検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えている。管理者は、入居者が家族と共に過ごしていただくことを大切に考えており、家族と一緒に食事をしていただく場面を作ったり、外出・一時帰宅の支援を行っている。大きな行事だけでなく、習字教室やクラフト等の日々のレクリエーションについても家族にお知らせをし、参加を呼びかけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、主治医をどうするかについて家族にお聞きし、入居前の医療機関に継続して受診することも可能である旨、説明している(結果的には、入居後に主治医が変わられる方が多い)。前回の外部評価以後、往診から通院に変更があり、通院介助は、ホームとして行っているが、入居者の健康状態について直接医師から聞いていただきたいとの思いもあり、可能な場合は、家族にも付き添っていただくようにしている。訪問看護・訪問歯科も活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として、ターミナルケアの実践を方針として明確にしている。当ホームでも、医療機関・訪問看護との連携体制を整えており、実際に看取りの実績もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については、研修会でもとりあげ、徹底している。入居者の自尊心・羞恥心に配慮したケアに努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にしている。入居者の活動性・生活リズムの確保のため、リハビリやレクリエーション等、ある程度の日課は決めているが、その時その時の入居者の気持ちを尊重している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、ユニットごとに、その日の担当者が考えるとのことで、入居者に食べたい物をお聞きしたり、買い物と一緒に行っていただいたりしている。弁当を持参している職員も含め、一緒に食卓について、会話をしながら必要な介助を行っている。季節感のある献立作りを心がけている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決めているが、希望があれば対応できる。体調により入浴ができない時も清拭を行い、清潔が保てるようにしている。拒否される場合は、言葉を変えて促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き・洗濯物たたみ・掃除・園芸等、役割をもってホーム活動に参加していただいている。外出を好まれる方が多いので、ドライブや外食の機会を多くもつようになっている。下肢筋力が低下されている方が歩こうとされるのを、“危ない行為”ではなく、“意欲”“向上のための力”と捉え、安全を図りながら、積極的に動いていただいている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気やその日の入居者の状態に合わせて、散歩・買い物にお連れしたり、戸外でレクリエーションをしたりしている。日帰り旅行やドライブも行っている。外出の頻度が少なめの方にも、居間から続くウッドデッキや庭で外気浴をしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は戸締りするが、日中は鍵をかけていない。外出されたい希望があれば、職員がついて出るようにしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、消防署の協力も得ながら、避難訓練を行っている。車いすを利用している方もおられる2階からの避難経路が階段になっているため、夜勤で各ユニット1名ずつの時の避難のシミュレーションもしている(毛布でくるんで引っ張る、抱える等、いろいろ試行した結果、おんぶするのが最も良いとなった)。法人からの指導で、非常時の備蓄もしており、賞味期限も含めて毎月チェックしている。地域の協力体制の整備は、これからの課題である。	○	地域との関係づくりを進めていく中で、災害時の協力依頼、地域の方も参加いただいで避難訓練等、段階を追って取り組みを行って欲しい。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、その時その時の担当が作っており、カロリー計算まではしていないが、法人の栄養士が作成した献立を参考にしたり、書籍を見たりしながら、バランスの良い食事の提供に努めている。食事・水分の摂取量の記録をとり、主治医から、定期検査の結果も踏まえての助言をいただいている。ホームとして、特に水分摂取には気を配っているとのこと。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装には木がふんだんに使われ、照明も柔らかい色のものが選ばれており、落ち着いた雰囲気が漂っている。レクリエーションで作っていただいた作品や家族がお持ちくださった花を飾ったりして、季節感を出している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・三面鏡・物入れといった馴染みの家具、位牌・仏壇・人形といった入居者にとって大切な物が置かれている。持ち込みの少ない方もおられるが、ホームとしては、入居に際し、「ご本人にとって思い出の物を、是非ひとつはお持ち下さい」とお話ししており、入居後に本人が作られた作品を飾る等、殺風景な感じにならないよう気を配っている。自宅の庭に植えられていた花を持って来られている方もおられる(職員が自宅まで取りに行った)。		